

学ぼう!SDGs

～みんなで考える世界の目標～

第4回 目標2「飢餓をゼロに」

2 飢餓を
ゼロに

目標2「飢餓をゼロに」

～飢餓に終止符を打ち、食料の安全確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する～

十分な食事をとれず、栄養不良な状態にある人は世界に約8億2100万人(2017年)、これは世界人口の9人に1人の割合です。そしてこの数字は、今後急速に増加していくと予想されています。食料を安定的に確保し、人々に供給できる世の中を目指しましょう。

わたしたちができる身近な取り組み

■国産のものを食べよう!

「食料自給率」をご存じでしょうか。食料自給率とは必要な量の食料を自国で生産する割合のことを指しますが、日本は38%と、多くを輸入に頼っています。しかし、貧しい国では同じように輸入できず、さらに自国で生産した食料を輸出し自分たちの食べる分がなくなっています。自国のものを自分たちで消費することは飢餓をゼロにする取り組みの一つになります。また、「地産地消」は生産者と消費者を結び付け消費者の食や農に対する理解が高まり、食料自給率の向上が期待できるとされています。

■食品ロスをなくそう!

「食品ロス」とは、人が食べるために生産されたにもかかわらず、食べ残しや賞味期限切れで捨てられる食べ物のことを指します。食品ロスが多いと、生産された食料が全て行き届かず食料不足となる国や地域が生まれてしまうのです。日本では年間621万tの食品ロスがあり、そのうち半分は家庭から出る食べ残しです。買い物をするときは買う量を考えて買いすぎに注意したり、消費・賞味期限をこまめに確認し、みんなで協力して日付けまでに食べ切るなど、一人ひとりが工夫して食品ロスを少しでも減らしていきましょう。

JAようてい職員が考えるSDGs関連事業

JAようていの「飢餓をゼロに」

- ・営農推進と安定生産への取り組み
- ・営農技術の向上に向けた情報提供
- ・各種品目の栽培試験の実施
- ・JICA等海外研修者の視察対応
- ・小学校での学校給食による愛食デーの実施
- ・親子クッキング、学童保育での食育

今後取り組むべき「飢餓をゼロに」

- ・共選施設の規格外野菜をフードバンクへ提供
- ・配食支援
- ・食育
- ・農産物の安定供給の継続

参考: 「1時間でよくわかるSDGsと協同組合」
EduTownSDGs わたしたちが創る未来 (<https://sdgs.edutown.jp/info/goals/goals-2.html>)